

株式会社平工業

SDGsは 「やれるしこ(できる範囲)」から



株式会社 平工業

代表取締役社長
中村 みどり
代表取締役専務
中村 史諭

従業員数

12名

設立

1995年

事業概要

建設業(建物解体)

近隣の住民や環境に配慮した 解体工事業を実施してきた

当社は総合解体工事業を営む会社として1995年に設立されました。以来、建物の解体、住宅内部やマンション内部のリノベーション解体など、地域内で様々な解体工事を実施しています。

解体工事では、コンクリート片や木片など、様々な産業廃棄物が出てまいりますので、当社ではリサイクルできるもの、リユースできるものを分けて、処理場に受け渡しています。また、この事業を続けていくうえでは、工事現場での粉塵飛散防止、騒音、振動の抑制など、近隣住民の方々や周囲の環境への配慮も必須です。**私たちは、「SDGs」や「サステナビリティ」が世の中的に課題として認知される以前から、事業特性上周圍の環境・社会に悪影響を及ぼさないことを重視して、解体工事現場において自社独特のマニュアルで厳しく管理**してきました。

最近、建築物石綿含有建材事前調査、撤去方法など、20年ほど前と比較すると外部環境が大きく変わってきたと感じます。県や市、業界団体などからも、解体工事や産廃に関する様々な情報が届きますので、新しい取組みを考える参考になっていますし、積極的に外部の勉強会に参加するなど、情報収集には力を入れるようにしています。



無理をせず、自社の「やれるしこ(できる範囲)」で 節電や省資源を実践

当社がSDGsに取り組み始めたきっかけは、熊本県でSDGs登録制度がスタートしたことでした。**SDGs登録事業者になるために、まずは県が作成しているチェックリストを見ながら、SDGsの17のゴールと事業の紐づけ**を行いました。経営陣と総務部が相談しながら、当社でできるもの・できないものを整理していき、地球の環境を守ること、住みよい町づくりに貢献すること、年齢・性別を問わずに人材を採用することの3つを重点的な取組みとして掲げました。

具体的な活動として、本業とかかわりの深い産業廃棄物のリサイクルのほか、緑化や清掃活動など地域での取組み、ペーパーレス化や節電など社内で行える取組みなどを実践しています。また、ダンプなど解体工事現場で使用する車両の燃料使用量をデータ化し、使用量削減にも取り組んでいます。他社と比べて特に突出した取組みはありませんが、SDGs登録事業者として掲げた目標に対して、一歩ずつ前進できている状況です。

私たちのような中小企業がSDGsに取り組む際には、財務状況などもふまえて、無理なく、現実的な範囲で取組みを維持していくことが大切だと思います。**熊本弁では、この考え方を「やれるしこ(できる範囲で、の意味)」**といいます。営業車のEV化など、将来の理想像として色々と思いつていることはありますが、まずは中長期的に今の事業を維持していくことが第一ですので、「継続こそ力なり」とい



う経営理念に沿って、**これから「やれるしこ」で取り組んでいき、その先に「やれた」という自信につなげていきたい**と思っています。

また、熊本県のSDGs登録事業者になったことで、県のホームページに当社のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿、取組みと目標などが掲載され、また当社のホームページでもSDGsロゴを表示できるようになりました。さらに、それを見た**外部の方が私たちの取組みを知り、環境や社会に配慮している企業として高く評価してくれることも増えました。**「やれるしこ」で少しずつ実践している中でも、アピールの効果は十分にあると実感しています。

熊本県のホームページに掲載されているSDGs登録書(概要)

分野	SDGsに関する重点的な取組み	指標
環境	社内・現場における廃プラ使用削減、温室効果ガス排出量削減	・マイバッグ・マイボトル推進 ・電力使用量前年比8%削減 ・電気自動車の導入
社会	地域に根付いた自治会活動社会貢献活動	・緑化、清掃活動の実施
経済	年齢・性別を問わない中途採用	・中途採用の実施(2024年までに3名採用)

少人数の会社だからこそ、みんなで声をかけあって取組みを続けていく

SDGsに取り組むうえでは、経営陣だけでなく従業員にも積極的に参加してもらうことが大切です。月に一度の定例会議の中では、工事を通じて大切にすべき姿勢、リサイクルや排出量削減などの進捗状況、その他解体工事業に直接関わるものに限らず外部から取り入れた多角的な



情報など、みんなで共有し合っています。例えば、当社は熊本県のSDGs登録事業者になる際に年単位で電力使用量8%削減の目標を設定しましたので、節電の成果などを総務部が管理し、毎月の進捗は微々たるものですが、**従業員にも目に見える形で状況を伝えていくことで、目標達成に向けたモチベー**

ション向上につなげています。

社内での活動としては、従業員の健康や働きやすさを重視して、年に一度の健康診断と二次検診の推奨、ウォーキング推進活動などを行っています。また、大同生命の担当者から「KENCO SUPPORT PROGRAM」アプリでの健診結果の登録・履歴管理を紹介していただき、従業員にも試してもらっています。ほかにも、**少しでもみんなの役に立つ情報があればと思い、私自身が色々なところから得た情報を従業員に共有することを心掛けていますし、そうした積み重ねが実際に従業員の日ごろからの健康意識の変化につながり、2～3年前よりもけがや病気の件数が減りました。****少人数の会社ゆえに一人でも欠員が出ると大変です。少なから、みんなが元気に働いてくれていることは、事業を安定して続けていくための大きな支えになっています。**

当社は勤続10年以上の従業員がほとんどであり、みんな一緒に歳を取ってきました。解体工事業の現場は事業特性上男性の割合が高いですが、女性従業員や高齢の従業員も適材適所で活躍し、健康で働き続けてもらうことを重視してきた成果だと思います。これからも、SDGsの取組みを強制するのではなく、みんなで声をかけ合って少しずつ関心を高めていけたらと思いますし、会社はそうようにしてみんなで育てていくものだと考えています。そうした当社の理念に共感し、今後は若い人材がもっと入ってきてくれば嬉しいですね。

ここがポイント! /

- 無理をせず、できることから取組みを始めて、持続させている
- 従業員へのコミュニケーションを通じて、SDGsへの関心を高める工夫をしている
- “見える化”の活用で、従業員および関係業者と様々な情報を共有している